



大学教育再生加速プログラム

平成 26 年度文部科学省
大学教育再生加速プログラム採択
テーマ I (アクティブ・ラーニング)

平成 27 年度
徳島大学 大学教育再生加速プログラム
事業実施報告書

学生と教員が共に成長する
「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」



徳島大学
Tokushima University

はじめに

「学生と教員が共に成長する『SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～』」の取組は、平成 26 年（2015 年）に、文部科学省大学教育再生加速プログラム（AP）のテーマ I 「アクティブ・ラーニング」に採択されました。平成 26 年度を実施準備の期間とし、平成 27 年度から「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」を開講し、学部 1 年生全員の 1324 名が受講しています。本報告書は、徳島大学大学教育再生加速プログラム事業の全容を記したものです。

「SIH 道場」は、「鉄は熱いうちに打て（Strike while the Iron is Hot）」の頭文字をとって名づけました。入学直後の学生の意欲は高くても、次第にモチベーションが下がってしまいます。そこで、「鉄は熱いうちに打て」の精神に則り、学生が入学した直後に高校から大学への学びの転換を促し、学生の学修意欲の向上を目指します。学生は、SIH 道場を通して、①専門分野の早期体験、②ラーニングスキル（文章力・プレゼンテーション力・協働力）の修得、③学修の振り返りを行います。しかし、SIH 道場で学ぶのは学生だけではありません。教員も SIH 道場の担当を通して、①アクティブ・ラーニングの実質化、②反転授業、ルーブリックによる評価法の修得、③教育経験の省察を行います。平成 27 年度以降の学部新入生は必ず SIH 道場を受講し、教員は、今年度担当した教員とは別の教員が来年度の SIH 道場を担当します。このように、SIH 道場を契機として、学生と教員がアクティブ・ラーニングを共に学び、学士課程全体に波及することで本学の教育文化を変えていきたいと考えています。

平成 27 年度の SIH 道場の実施後には、学生と教員を対象にアンケートを実施しました。その結果、SIH 道場プログラムの満足度について、学生の 83%が肯定的な評価をしている一方、教員については肯定的な評価をしているものが 49%という数字になっています。授業を受講する学生と担当する教員にこれだけの意識の差があるのは驚きですが、翻ってみると、授業を担当する先生にとって準備の負担の重いプログラムであると言えます。SIH 道場を学部・学科単位で実施するにあたっては、それぞれの授業設計コーディネーターの先生がプログラム設計・運営の中心的な担い手となりました。そのご苦勞が、準備されたプログラムを 8 割の学生が肯定的に評価したという結果につながっているのだと思います。

しかし、教育改革は教員だけの努力では実現できず、大学教育のステークホルダーたる学生にその意見を聴くことによってこそ実現することができます。そのため、「SIH 道場評価・改善ワーキンググループ」を設置し、SIH 道場を受講した学生の意見が次年度の SIH 道場に反映される体制を構築しています。今後も、学生の意見を取り入れながら SIH 道場を含む事業全体の改善を図り AP 事業を推進して参りますので、引き続きご支援の程よろしく願いいたします。

平成 28 年 3 月

徳島大学大学教育再生加速プログラム実施専門委員会委員長
徳島大学理事（教育担当）副学長

高石 喜久